

○事業所名	放課後等デイサービス くりーむうさぎ・守口		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員・保育士を配置し、日々の療育に個別支援計画を反映し、長期スパンで取り組んでいる。また、情操教育に力を注ぎ、ヤマハ音楽講師・書道師範・お絵描きの漫画家先生を配置し、利用児の興味・得意分野の開発に努めている。運動の得意な指導員の配置で、身体を動かすことも取り入れている。	限られたスペースを有効活用する取り組みを実践。学習・読書等静かに過ごす部屋・ゲームや遊びをアクティブにする部屋は、室内用テント等を活用し、隠れ家的雰囲気も出している。絵表示を活用し、片づける意識と実践を助めている。継続して水泳教室を毎月開催し、体力体調維持に努めている。	アナログゲーム・プラレール・レゴ等、収納スペースを効果的に配置し、常に有効活用を心がけている。プラモデル製作活動を通じて、手先を器用に使う動作や解体組み立て等、集中・待つことを学ぶようにしている。
2	発達支援センターご教授の基、ワークシステムを導入している。SST・言語聴覚士・音楽療法士・作業療法士・理学療法士毎の講座を参考にして、独自のスタイル構築している。	利用児の特性に合わせて、ワークシステムを発展させている。保護者の意見を収集反映して、従来の就労支援等に役立つように、指示・理解・返答・完遂・報告の流れ・実践活動に繋がるように、常に見直し・進化を目指している。	こども発達支援センターや他事業所・専門事業所等を利用児併用の元、実地に指導アドバイスを頂き検討していく。
3	利用児童に施設活動を楽しんで頂き、土曜・祝日・長期休暇でのイベント拡充を図っている。お誕生日会・生活歳時企画・水泳教室・クラフト教室・料理教室に加えて、夏祭り・ハロウィン等の企画を充実させていく。	ハロウィンに代表される利用児の嗜好に即して、新たな取り組みを拡充。どの催事企画も過去踏襲型にならないように、常に新たな取り組みを模索していく。	企業内他事業所企画や他事業所HPを参考に毎月企画をブラッシュアップしていく。今期から企業内他事業所と合同イベント(体育館使用)を企画・実践予定。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第3者機関の外部評価の促進。	日々の運営が優先になっており、管理者が主体に第3者機関を模索し、まずは初めて見ることである。企業内他事業所との評価を始めてみる。	行政・他事業所等を参考に、勤めていく。民間企業からのアプローチも多数あるが、内容を精査し、今後の療育・運営の課題特定・改善につながるか、判断していきたい。
2	保護者会開催。	コロナ環境下、促進が進んでいない。保護者の意向を把握して、保護者会の独立した運営を目指していき、当事業所がサポートできるようにしていく。	保護者の協力と共にリーダーシップも重要。保護者会の目的・運営スタイル等、当事業所が保護者の意見を反映して組み立てていく。
3	地域・他事業所交流の促進。	上記同様に保護者の意向が重要である。促進を望まれる前提では、地域・他事業所への打診含めて、当事業所がコーディネートしていく。	地域・他事業所との相互理解が必要である。まずは企業内他事業所との交流イベントからスタートする。